開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技		
科目名	基礎理論						
実務経験							
教員							
必須選択		⊠ <u>ı</u>		選択 □,	必須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	28 時間	(状況)	りオンラインと対	面の併用形式)	
対象学年	電子研究科2年	Ŧ					
到達目標	電気に関する	基礎的な知識、語	計算能力と理	論と応用を学び	び、実際に活	用する能力を育て	てる。
授業内容	オームの 抵抗回い 電流のの ②磁気 磁力の付 誘導イン ③静電気 電解の付 コンデン ④交流 国路 基本回い	路 作用 生質と働き ンダクタンス 生質					
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごとり ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	 ン、60 点以上	を合格とする。			
		期日までのレポ-	-ト作成により	り単位の回復る	を認める。		
その他	80%以上の	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠育	前期	□後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演	習	□実験	・実習・実	 技	
科目名	電気回路							
実務経験								
教員								
必須選択		$\boxtimes u$	必須	□選択	لاٰ□	必須選択		
授業時間	前期	56 時間/後期	時間		(状況よ	りオンラインとタ	対面の併用形式)	
対象学年	電子研究科2年	Ŧ.						
到達目標	電気回路におり	ナる公式を理解し	」計算方法	について	理解する	5.		
授業内容	①原子の構造 ②半ライオー ③ タイをでする ② タイプ を ② の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	タ回路 回路 表子 ランジスタ 回路 D進数・16進数 里回路	文					
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし						
		期日までのレポ- 	- ト作成に	.より単位	エሀン回復を	≿認める。		
その他	80%以上のは	出席必要						

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技	
科目名	電気通信の基础	楚				
実務経験						
教員						
必須選択		لو⊠	必須 □	選択 □≠	必須選択	
授業時間	前期 2	8 時間/後期	時間	(状況。	よりオンラインと対	面の併用形式)
対象学年	電子研究科2年	F				
到達目標	電気通信回線で	ついての伝送理詞	輪を理解し、 [∙]	デジタル伝送路	烙の伝送技術	について理解する。
授業内容	⑦デジタル変詞	算 線の電気特性 音、反響、SN 比 周方式 式・多重アクセス	ス制御方式			
評価方法	③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし 朝日までのレポ-				
その他	80%以上のは		1 151200	<u> </u>	こ かいくく 〇 0	
してひれ出	Iou~WLWi	山市少安				

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実	<u></u> 技	
科目名	端末技術						
実務経験							
教員							
必須選択		⊠ų́	必須 □:	選択 □	必須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	時間	(状況。	よりオンラインと	対面の併用形式	ڑ)
対象学年	電子研究科2年	¥					
到達目標	ブロードバン	ドネットワークで	で用いられてい	いる各種端末	設備・機器	の機能について	理解する
授業内容	③LAN の概要 ④LAN の伝送数 ⑤イーサネッ ⑥無線 LAN	テムにおける各種 媒体 ト LAN ^プ クセス制御方式 装置					
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごとり ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	 ノ、60 点以上	を合格とする	0		
	⑤追試や指定類	朝日までのレポー	ト作成によ	り単位の回復	を認める。		
その他	80%以上の	出席必要					

授業方法 科目名 接続工事技術 実務経験 教員 必須選択 授業時間 前期 56 時間/後期 時間 (状況よりわうのと対面の併用形式) 対象学年 電子研究科2年 到達目標 プロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。 ①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバゲーブルを用いた LAN の配線工事 ③光ファイバゲーブルを用いた LAN の配線工事 ③光ファイバゲーブルを用いた LAN の配線工事 ③光内等観線システム のフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥ 1P ボック 電話装置 ⑦施工管理技術 「効本性を関する」 「学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 4 投業態度 ⑤ 造試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。 その他 8 0 %以上の出席必要	開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期	
実務経験 教員 必須選択 必須選択 図必須 □選択 □必須選択 □返押 □必須選択 □返押 □返押 □ □返押 □ □返押 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	授業方法		⊠講義	⊠演習	□実験	・実習・実技		
数員 必須選択	科目名	接続工事技術						
	実務経験							
授業時間 前期 56 時間/後期 時間 (状況よりわうわと対面の併用形式) 対象学年 電子研究科2年 到達目標 プロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。 「ジメリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバゲーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術 「学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。	教員							
対象学年 電子研究科2年 到達目標 プロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。 授業内容 ①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術 評価方法 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。	必須選択		$\boxtimes y$	必須 □	選択 □』	必須選択		
到達目標 プロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。 授業内容 ①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術 評価方法 ②学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。	授業時間	前期 5	6 時間/後期	明時間	(状況)	こりオンラインと対	面の併用形式))
の設計・安全管理について学習する。 授業内容 ①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバゲーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術 評価方法 ②学料目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。	対象学年	電子研究科2年	Į.					
②光ファイバゲーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術	到達目標				ての各種配線	材料、配線工	法、工事試験、	施工上
②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。	授業内容	②光ファイバク ③構内情報配線 ④情報配線シブ ⑤コマンド等 ⑥IP ボタン電 ⑦施工管理技術	デーブルを用いた 線システム ステムのフィール こよる LAN の工事 話装置 析	た LAN の配線I ルドテスト	=			
	評価方法	②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし					
	その他			. 117-70100	- 1 - 1 - 1			

開講年度	2025	開講学期		⊠前其	朝	□後期		□通期		
授業方法		⊠講義	□演習		□実験・	・実習・乳	実技			
科目名	情報セキュリ	ティ								
実務経験										
教員										
必須選択		×μ	必須 □	選択	□ у́	必須選択				
授業時間	前期 5	6 時間/後期	月 時間		(状況よ	こりオンライン	と対配	面の併用が	形式)	
対象学年	電子研究科2年	Ŧ								
到達目標	セキュリティI て理解する。	こ対する考え方、	認証技術、	攻撃の	種対とる	その対策、	運営	管理上6	の技術につ	L١
授業内容	②暗号化技術 ③電子認証、「	ムに対する脅威 PKI、デジタル署 ネットワークセ= リティ管理								
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし								
		朝日までのレポ-	- ト作成によ	り単位の	/)凹復る	上認める。				
その他	80%以上の:	出席必要								

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	□後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技	
科目名	ネットワーク技	支術				
実務経験						
教員						
必須選択		⊠ય્રે	必須 □〕	選択 □┆	必須選択	
授業時間	前期 5	6 時間/後期	時間	(状況。	よりオンラインとタ	対面の併用形式)
対象学年	電子研究科2年	Ŧ				
到達目標	TCP/IP の基礎	楚や VoIP, アクセ	ス技術等につ	いて理解する	00	
授業内容	⑥VoIP ⑦HDLC、ATM ⑧広域イーサ	送路符号方式 ークの概要	支術			
評価方法	③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし				
	⑤追試や指定期	朝日までのレポー	-ト作成により	り単位の回復を	を認める。	
その他	80%以上の	出席必要				

開講年度	2025	開講学期		⊠前	期	□後期		□通期	
授業方法		⊠講義	□演習]	□実験	・実習・	実技		
科目名	通信法規								
実務経験									
教員									
必須選択		$\boxtimes y$	必須 □	選択	لاٰ □	必須選択	l		
授業時間	前期	112 時間/後期	時間		(状況よ	りかた	と対配	面の併用形	式)
対象学年	電子研究科2年	年							
到達目標	法の目的、用意	語の定義など電気	凤通信回線設	が備に端	末設備等	等を接続	するだ	こめ法規に	ついて学習
授業内容		規則 合認定等規則							
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごとは ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	 ノ、60 点以上	 -を合格	とする。	•			
		朝日までのレポ-	-ト作成によ	り単位	の回復を	を認める	0		
その他	80%以上の	 出席必要							

開講年度	2025	開講学期			□前	Ĭ期	⊠後期]	□通期	
授業方法		⊠講義		□演習		□実験	・実習・	実技		
科目名	配電理論									
実務経験										
教員										
必須選択		$\boxtimes y$	必須	□ j	選択	□ и́	必須選択	7		
授業時間	前期	時間/後期	14	時間		(状況よ	こりオンライ	ンと対	面の併用形式)
対象学年	電子研究科2年	Ŧ.								
到達目標	屋内幹線や分岐	支回路の設計に つ	ついっ	て理解し、	配線	図の読み	み方、書	き方に	こついて学習す	する。
授業内容	電気方式 屋内配線の 電線の太で 引込線及で	用される電気 ・配電方式 の対地電圧 かの決め方 び引込口配線 過電流保護・接り 場の設計	也保記	擭·接地						
評価方法	①学期末の定算 ②学科目ごとり ③出席率 ④授業態度	期試験 こ 100 点満点とし	 سرر (— <u>——</u> 60 点以上 [;]	 を合格	— <u>—</u> 各とする。)			
		期日までのレポ-	- ├ ſ	作成により	ノ単位	の回復を	を認める	00		
その他	80%以上のは	出席必要								

開講年度	2025	開講学期		□前期	\triangleright	☑後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習		実験・美	実習・実技		
科目名	電気機器							
実務経験		務で電気工事実 	務経験のある	教員が担	当。第1	I 種電気工	事士免状を値	呆持してい
教員	る者が担当。							
必須選択		$\boxtimes \iota$	必須 □	選択	□必須	頁選択		
授業時間	前期	時間/後期	28 時間	(\)	犬況より	オンラインと対	面の併用形	式)
対象学年	電子研究科2年	Ŧ						
到達目標	電気機器の原理	理・構造・機能な	などを学び、	その用途、	、使い方	ī、特徴な。	どを理解する	ó.
授業内容	電気のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	がいし管 びダク 具 見 の器具 配電盤						
評価方法	①学期末の定期 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	期試験 こ 100 点満点とし	- し、60 点以」	-を合格と	する。			
		朝日までのレポ-	ート作成によ	り単位の	回復を認	別める。		
その他	80%以上のは	出席必要						

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習] □実	験・実習・実技	,
科目名	配線図					
実務経験						
教員						
必須選択		$\boxtimes y$	必須 □	選択	□必須選択	
授業時間	前期	時間/後期	28 時間	(状)	兄よりオンラインとタ	対面の併用形式)
対象学年	電子研究科2年	Ŧ				
到達目標	建物の平面図	こ書く配線図、電	電気の図記号	について学	習する	
授業内容	①スイッチ ②コンセン ③開閉器・) ④照明器具 ⑤機器・計	遮断器	OUT			
評価方法	①学期末の定期 ②学科目ごとり ③出席率 ④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし	ン、60 点以上	-を合格とす	ె .	
		朝日までのレポ-	ート作成によ	り単位の回	復を認める。	
その他	80%以上の	出席必要				

開講年度	2025	開講学期			前期	⊠後期		□通期	
授業方法		□講義	⊠濱	習	□実験	・実習・	実技		
科目名	電気工事実習								
実務経験		務で電気工事実施	条経験の あ	る教員を	が担当。	第1種電	:気工事	事士免状を	:保持してい
教員	る者が担当。								
必須選択		Щ́	必須	□選択	اِ□	必須選択	•		
授業時間	前期	時間/後期	56 時間	5	(状況	よりかえ	ひと対	面の併用	形式)
対象学年	電子研究科2年	Ŧ							
到達目標	基本的な電気	工事回路を理解し	ノ、確実に	作成を行	うう。				
授業内容	④パイロット ⑤3路スイ、 ⑥4路スイ、 ⑦自動点滅 ⑧タイムス・	イッチ回路 ンセント回路 トランプ回路 ッチ回路 ッチ回路	月した複合	・回路の何	作製				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし	人、60 点以	人上を合	格とする	o			
		朝日までのレポー	-ト作成に	より単位	立の回復を	を認める	0		
その他	80%以上のは	出席必要							

開講年度	2025	開講学期			□前	期	⊠後期		□通期		
授業方法		□講義		⊠演習		□実験	・実習・	実技			
科目名	基本実習										
実務経験	20年以上業務	务で電気工事実	务経験	のある教	員カ	挺当。	第1種電	気工	事士免状を	と保持してい	
教員	る者が担当。										
必須選択		ب⊠	必須	□選	択		必須選択	1			
授業時間	前期	時間/後期	56	時間		(状況よ	こりオンライン	と対配	面の併用形	式)	
対象学年	電子研究科2年	Ŧ.									
到達目標	国家試験電気	Ľ事士試験公表 li	問題の	回路を理	解し	/、確実	に作成を	·行う。			
授業内容	第二種電気工 製作手順の記	事士技能試験公 説明・製作	長問題								
	第一種電気工事 製作手順の記	事士技能試験公 党明・製作	長問題								
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに ③出席率	こ 100 点満点とし	ر 60	点以上を	合村	各とする) o				
	④授業態度	期日までのレポ-	- ト作	成により	単位	፲の回復	を認める	0			
その他	80%以上のは	出席必要									

開講年度	2025	開講学期			□育	期	⊠後期	3	□通期		
授業方法		□講義		⊠演習	}	□実験	・実習・	実技			
科目名	応用実習										
実務経験		努で電気工事実	务経	験のある	教員な	が担当。	第1種電	気工	事士免状で	を保持し	てい
教員	る者が担当。										
必須選択		ی⊠	必須		選択		必須選択	5			
授業時間	前期	時間/後期	56	時間		(状況	よりオンライ	ンと対	面の併用	形式)	
対象学年	電子研究科2年	Ŧ									
到達目標	基本的な技術を	を身に着け、電気	和	烙の配線	や電気	機器の	作成を行	īò。			
授業内容	電気では、ほのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	部品 取付 吏い方 する部品	を値	吏用した	複合回	回路の作	製				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごと ③出席率 ④授業態度	こ 100 点満点とし	ے کر ر	60 点以上	 _を合	— <u>—</u> 各とする)°				
		期日までのレポ-	- トf	作成によ	り単位	で回復	を認める) o			
その他	80%以上の	上席必要 出席必要					-				

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	l □実馬	険・実習・実持	 支	
科目名	電気実習						
実務経験 教員	20年以上業績 る者が担当。	務で電気工事実	務経験のある	教員が担当。	第1種電気	工事士免状を保持	手してい
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{L}}$	必須 □	選択	□必須選択		
授業時間	前期	時間/後期	56 時間	(状況	はりオンラインと	対面の併用形式)	
対象学年	電子研究科2年	‡					
到達目標	電気製図につい 習する	ハての技術・知	識を身に着け	る。電気設備	前の配線方法 [・]	や製図の基礎にて	いて学
授業内容	③機械図面(方				
評価方法	③出席率④授業態度	こ 100 点満点とし					
7.0.11		朝日までのレポ-	ートTF放によ	ッキュの凹位	をとぶめる。		
その他	80%以上の:	出席必安					

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	\$
科目名	測定実習					
実務経験 教員	20年以上業る者が担当。	務で電気工事実 	務経験のある	教員が担当。	第1種電気コ	事士免状を保持してい
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{I}}$	必須 □遊	選択 □	必須選択	
授業時間	前期	時間/後期	56 時間	(状況	兄よりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	電子研究科2年	<u> </u>				
到達目標	電気に関する	実験・測定器・行	各種機器につい	ハて理解を深	₿め、取り扱い	1方法を学ぶことを目的
授業内容	① (1) (2) (3) (3) (4) (5) (6) (6) (7) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	計 ストンブリッジ スタの静特性 の特性 IC カウンタ	去・レポート作	存成		
評価方法	③出席率④授業態度	是出 こ 100 点満点とし 朝日までのレポ-				
その他	80%以上のは		1 TENNICO		、こ かいく ひ 0	
	0 0 /0以上(/)	山市必安				

開講年度	2025	開講学期		□前期	⊠後期	□通期	
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技		
科目名	家電技術						
実務経験							
教員							
必須選択		$\boxtimes u$	必須 □	選択 □	必須選択		
授業時間	前期	時間/後期	28 時間	(状況よ	りカンラインと対	面の併用形式)	
対象学年	電子研究科2年	Ŧ					
到達目標		里技術に必要な 方法を身につける		里、動作、構	造、設置方法	について習得し、ī	Eυ
授業内容	① ② ③ 介電 で い で で で で で で で で で で で で で で で で で	ー ジングヒーター 乾燥機 電システム ハウス		こついて理解	する		
評価方法	③出席率④授業態度	朝試験 こ 100 点満点とし 朝日までのレポ-					
Z (D /IL)			いまれてい	ノギロツ凹後	て呼ぶる。		
その他	80%以上のは	5					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		⊠講義	□演習	□実験	・実習・実技	支
科目名	キャリア教育					
実務経験	単元に合った理	現役の各種社会	人(インター	シップ・社会	人講和など)	が担当する。
教員						
必須選択		ی⊠	必須 □	選択 □	必須選択	
授業時間	前期 1	6 時間/後期	16 時間	(状況	よりオンラインとタ	対面の併用形式)
対象学年	電子研究科2年	F				
到達目標	社会人・職業 <i>)</i> 携授業を行う	人として必要とる	される知識や	技術を身につ	ける。また、	研修を含む企業との連
授業内容	業界人講話					
	①業界の現場	犬				
	②求められる	る人材				
	③現場作業の	の実際				
	④社会人とし	してのマナー				
	企業研修					
	①現場の見き	学				
	②作業手順					
	③安全教育					
	④技術の習行	导				
	0 W H0 + 0 ++					
評価方法	①学期末の定期 ②学科目ごと	明試験 こ 100 点満点とし	7. 60 点以 h	-を合格とする		
	③出席率		3 (00)////>/ <u>-</u>	СППСУС		
	④授業態度 ⑤泊録か指字は	朝日までのレポ-	_	11単位の同復	た訒めて	
7 A M.			いけ込によ	ソギ四の凹後	て認める。	
その他	80%以上のと	出席必要				

開講年度	2025	開講学期			⊠前	期	⊠後期		□通期	
授業方法		□講義		⊠演習		□実験	・実習・	実技		
科目名	電気工事実習									
実務経験		務で電気工事実施	务経験	のある教	員か	担当。	第1種電	気工	事士免状を保持してい	۱,
教員	る者が担当。									
必須選択		\boxtimes_{i}	必須	□選	訳		必須選択	•		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 B	寺間		(状況	よりオンライン	ンと対	面の併用形式)	
対象学年	電子研究科3年	=								
到達目標	工事方法を	習得し、配線器!	具への	配線方法	につ	いての	技能を修	得する 	5.	
授業内容	①模擬家屋を何	吏用して実践的な	い配線							
	・LED ラィ	(
	・換気扇									
	・ダウン	ライト								
	・エアコ	ン								
	・コンセン	ント								
	・アース									
	②個人課題作用	戓								
評価方法	①課題作成の打 ②試験課題作成の打									
	③出席率	<i>J</i> X,								
	④授業態度									
	⑤追試・レポー									
その他	80%以上の	出席必要								

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期	
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	ξ	
科目名	応用実習						
実務経験 教員	20年以上業る者が担当。	烙で電気工事実	務経験のある	教員が担当。	第1種電気コ	事士免状を保持	手してい
必須選択		$\boxtimes_{\underline{l}}$	必須 □	選択 □	必須選択		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時間	(状況	よりオンラインとタ	対面の併用形式)	
対象学年	電子研究科3年	<u> </u>					
到達目標	現場で使われ ² 策について学	る電気・制御機 習します。	器・シーケン	ス制御の基本	や感電や漏電	ごといったトラフ	ブルと対
授業内容	①正転・逆転I ②スター・デ ③インターロ ④一致回路 ⑤順序開始回I ⑥電源側優先I ⑦タイマ回路	レタ回路 ック回路 路					
評価方法	①課題作成の ②試験課題作成の ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポ・	戉					
その他	80%以上の	 出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演習	□実験・	・実習・実技	
科目名	電気実習					
実務経験						
教員						
必須選択		$\boxtimes_{!}$	必須 □	選択 □ѝ	必須選択	
授業時間	前期 8	4 時間/後期	56 時間	(状況よ	りオンラインと対	面の併用形式)
対象学年	電子研究科3年	羊				
到達目標	シーケンス 接続、動作作詞		シミュレータ	を使用してプロ	コグラムを習行	导し、実機を用い配線
授業内容	①PLCとは					
	②各種基本命令	令				
	③プログラミ:	ングソフトの習行	得			
	④基本命令プ[コグラム実習				
	⑤応用命令					
	⑥配線接続・動	動作実習				
	O-mar // N = 1					
評価方法	①課題作成の打 ②試験課題作成の打					
	③出席率	~				
	④授業態度 ⑤追試・レポ-	_ 人坦屮				
7 A M.						
その他	80%以上のは	出席必安				

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期						
授業方法		□講義	⊠演習	□実験	・実習・実技	•						
科目名	CCNA											
実務経験												
教員												
必須選択		$\boxtimes y$		選択 □』	必須選択							
授業時間	前期 11	2 時間/後期	112 時間	(状況	よりオンラインとタ	対面の併用形式)						
対象学年	電子研究科3年	Ę.										
到達目標	小規模なネッ う	トワークの導入か	や運用、およ	びトラブルシュ	ューティング	を行う知識と技能を養						
授業内容	① ネットワ-	-クとは										
	② ネットワー	-クOSの設定										
	③ ネットワー	-クプロトコルと	ビ通信									
	④ ネットワ-	-クアクセス層										
	⑤ イーサネッ	ソト										
	⑥ ネットワー	シ ネットワーク層、トランスポート層										
	⑦ IPアドレ	ノス、 I Pネット	- ワークのサ [.]	ブネット化								
	⑧ アプリケ-	ーション層										
	⑨ 基本的なえ	スイッチの概念と	≤設定									
	10 VLAN											
		ングの概念										
		ーティング										
		ックルーティング	ブ、ダイナミ [、]	ックルーティン	ング							
		ロリアOSPF										
		コントロールリス		フルレ フ ボは								
	160 DHCP、	IPv4の	ドツトリーク	アトレス変換								
評価方法	①課題作成の抗											
	②試験課題作成 ③出席率	又										
	④授業態度	ı ledi.										
	⑤追試・レポー											
その他	80%以上のと	出席必要										

開講年度	2025	開講学期		⊠Ė	前期	⊠後期		□通期	
授業方法		□講義		演習	□実験	・実習・	実技		
科目名	電気製図								
実務経験									
教員									
必須選択		×μ	必須	□選択		必須選択	1		
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時	間	(状況よ	こりオンライン	ンと対	面の併用形式)	
対象学年	電子研究科3年	Ŧ							
到達目標	製図の基本を	学び、製図の技能	と・技術な	を習得する	5。電気機	器の作	図を行	い構造等を理解	する。
授業内容	①製図の基本								
	②機械・部品								
	③電気機器								
	④屋内配線図								
	⑤自家用変電	设備							
	⑥シーケンス お	制御回路							
	⑦電子機器								
	⚠■晒佐代の	ө ш							
評価方法	①課題作成の打 ②試験課題作成の								
	③出席率								
	④授業態度 ⑤追試・レポ-	- ト提出							
スの 畑									
その他	80%以上の	山							

開講年度	2025	開講学期		⊠育	前期	⊠後期	□通期
授業方法		□講義	⊠演	習	□実験	・実習・実	技
科目名	電子回路						
実務経験							
教員							
必須選択		N	必須 [□選択	لٰا⊏	必須選択	
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時間		(状況よ	こりオンラインと	対面の併用形式)
対象学年	電子研究科3年						
到達目標							する。 なくハード面について電
授業内容	①各種電子素	子					
	②ユニバーサル	ル基板のレイア!	ウト図				
	③プログラミン	ング					
	④電子工作回記	洛作成					
	⑤はんだづけ						
 評価方法	①課題作成の打 1	是出					
	②試験課題作品						
	③出席率④授業態度						
	⑤追試・レポー	ート提出					
その他	80%以上のは	出席必要					

開講年度	2025	開講学期		⊠前期	⊠後期	□通期			
授業方法		□講義	⊠演習] □実	験・実習・実技	支			
科目名	電気技術								
実務経験									
教員									
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{V}}$	必須 🗆	選択	□必須選択				
授業時間	前期 5	6 時間/後期	56 時間	(状》	兄よりオンラインとタ	対面の併用形式)			
対象学年	電子研究科3年	丰							
到達目標	無人航空機にための技術を見		(機体概要・	飛行方法・	飛行に関する流	法律)や安全に操縦する			
授業内容	①無人航空機の	の概要							
	②飛行のルール	ル・関連法令							
	③気象・安全対策								
	④点検方法								
	⑤シミュレータ								
	⑥実機操縦訓練								
	⑦安全教育								
	O-mar // N = 1								
評価方法	①課題作成の打 ②試験課題作成の打								
	③出席率	~~							
	④授業態度⑤追試・レポー	_ 人坦屮							
7 C III									
その他	80%以上のは	出席必要							

開講年度	2025	開講学期		⊠育	前期	⊠後期	□通期			
授業方法		□講義	⊠演	图	□実験・	実習・実技	3			
科目名	キャリア教育									
実務経験										
教員										
必須選択		$\boxtimes_{\mathcal{U}}$	必須	□選択	□必	必須選択				
授業時間	前期 1	6 時間/後期	16 時間		(状況よ	りオンラインとタ	対面の併用形式)			
対象学年	電子研究科3年	F								
到達目標	社会人・職業 <i>。</i> 携授業を行う。		される知識	や技術を	を身につけ	ける。また、	研修を含む企業との連			
授業内容	業界人講話									
	①業界の現状									
	②求められる人材									
	③現場作業の実際									
	④社会人とし ⁻	てのマナー								
	企業研修									
	①現場の見学									
	②作業手順									
	③安全教育									
	④技術の習得									
		、 - ^ /士/ (1/20 33/2	8							
	コミュニケーション技術の習得									
評価方法	①課題作成の打									
	②試験課題作成 ③出席率	以								
	④授業態度									
	⑤追試・レポー	-ト提出								
その他	80%以上のは	出席必要								